

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

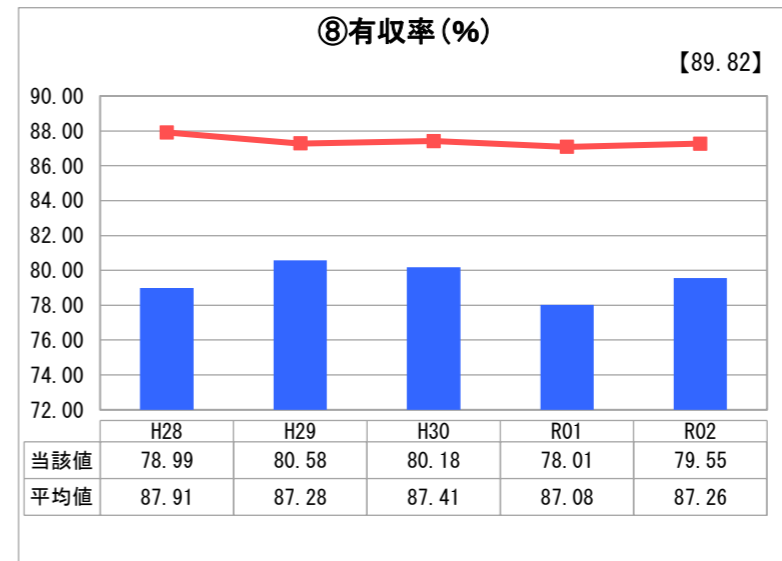
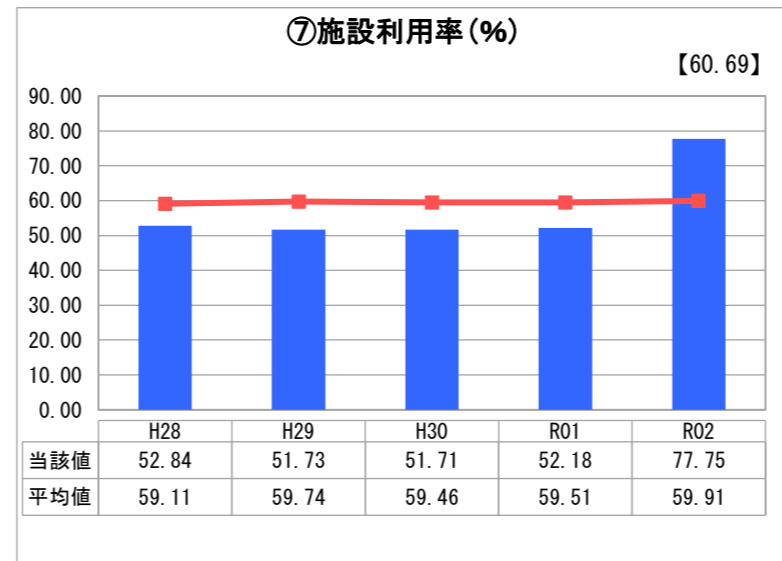
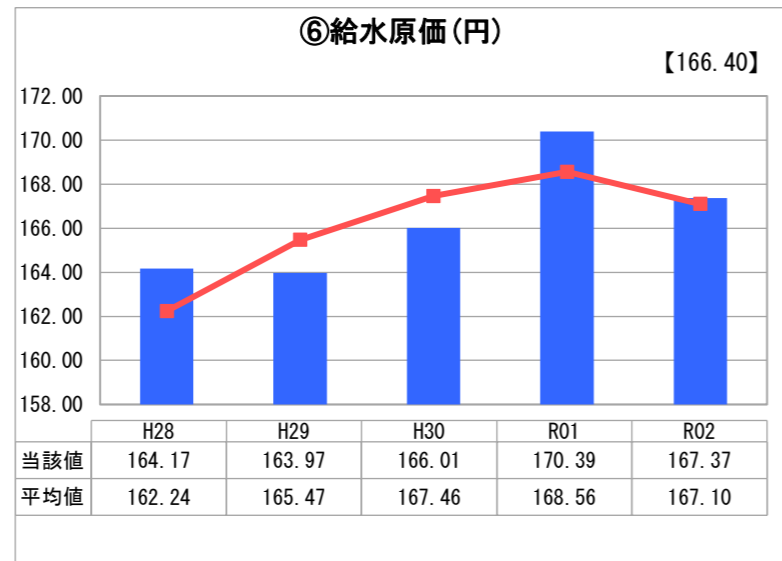
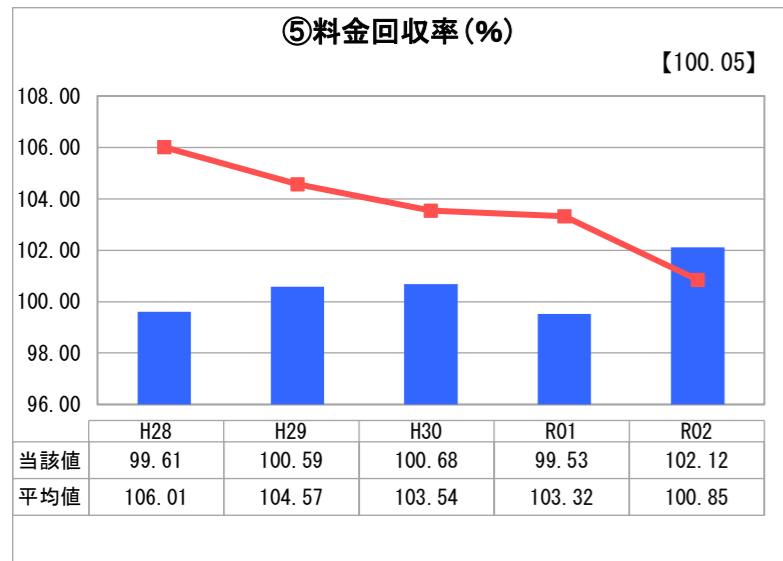
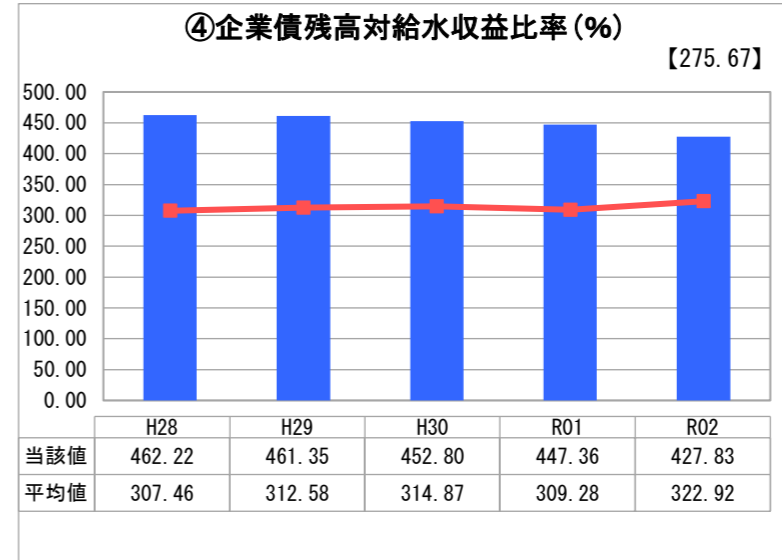
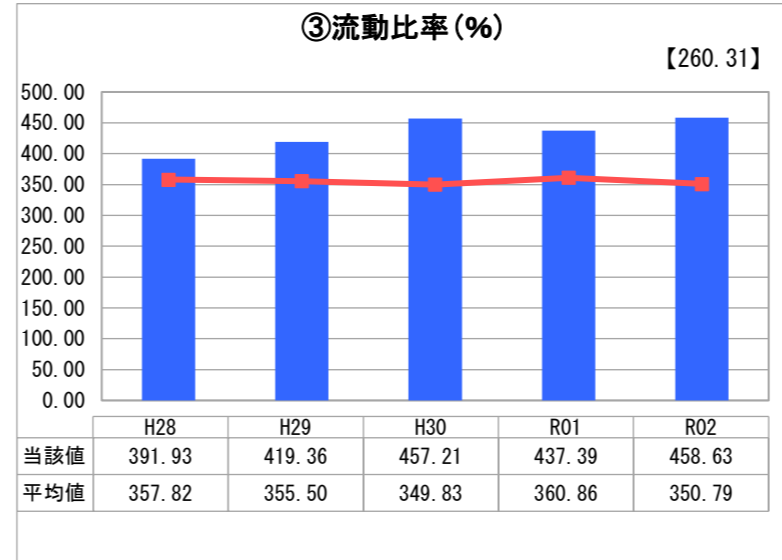
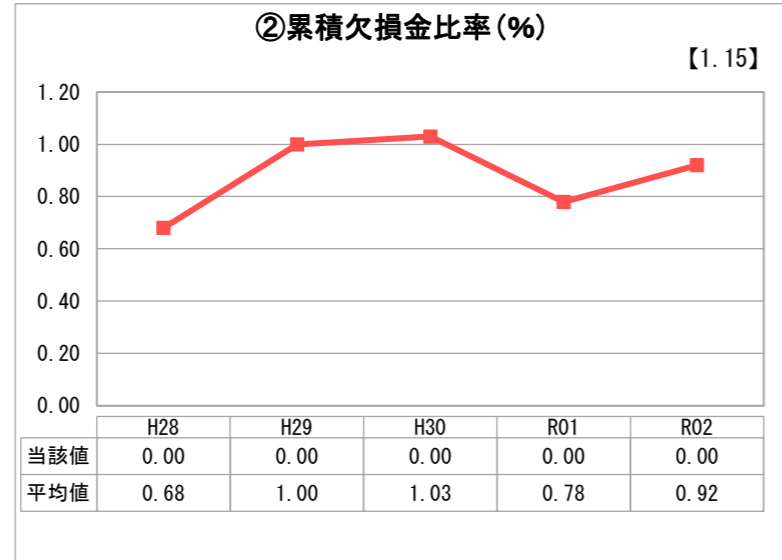
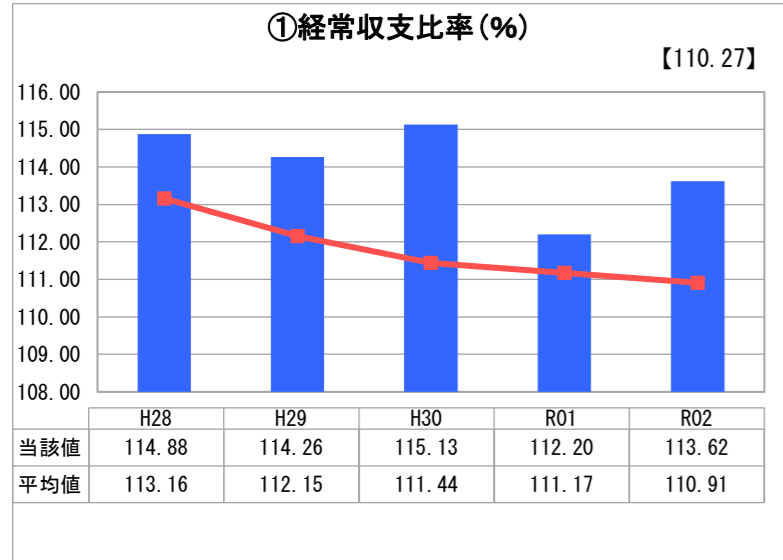
福島県 白河市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	65.61	95.89	2,343	

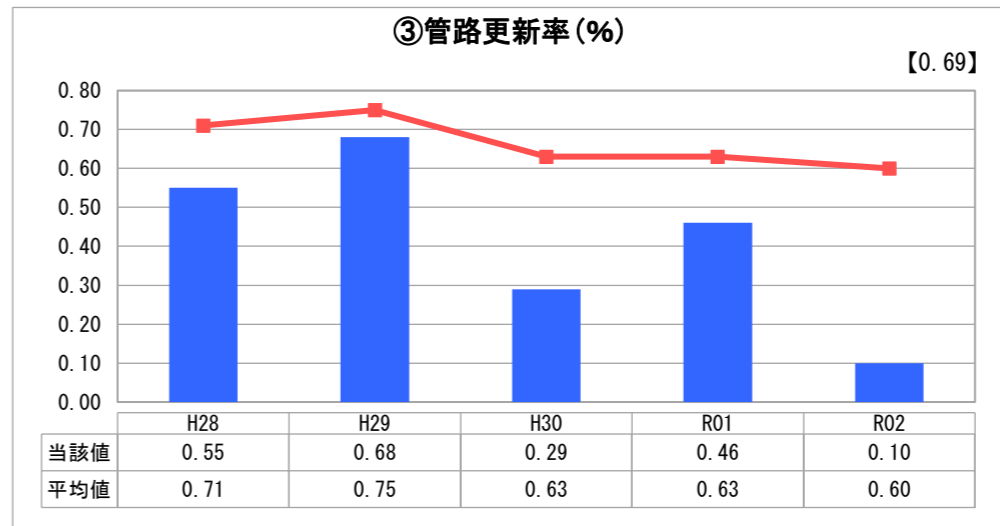
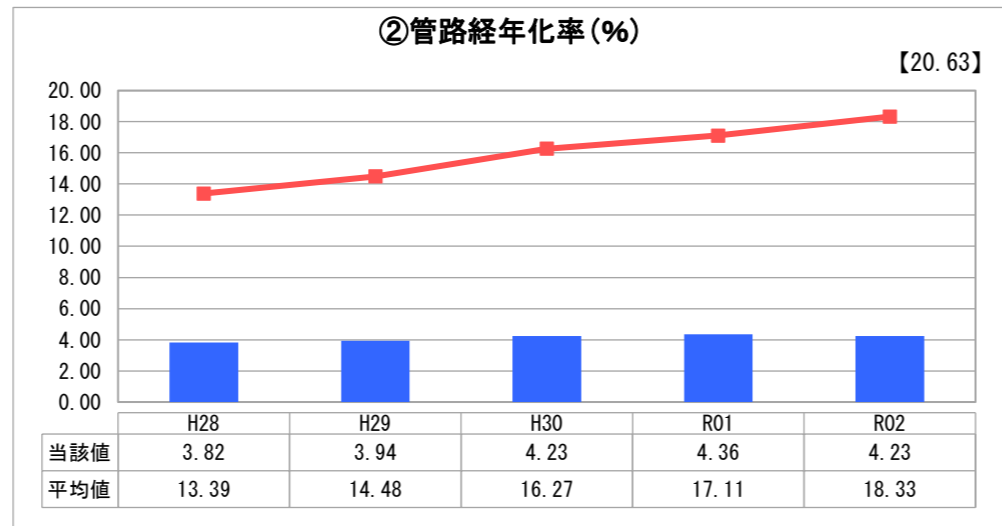
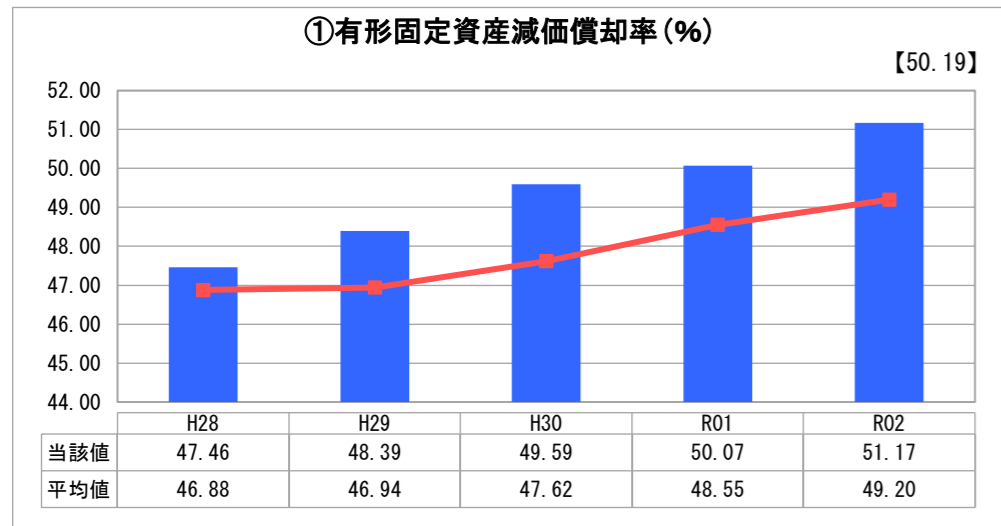
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
60,110	305.32	196.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
57,378	161.17	356.01

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本市の水道事業は、平成28年度に簡易水道を統合した。事業統合に併せ、旧簡水の料金を上水料金まで引き上げたため、平成29年度から激変緩和措置を講じ、令和2年度に料金統一を図った。

①経常収支比率、③流動比率の各指標が類似団体平均値を上回り、財務の健全性や支払能力に問題はない。

⑥給水原価は前年度を下回り、ほぼ類似団体平均値と同水準となった。

④企業債残高対給水収益比率は、前年より減少し、堅実な企業債の償還が進んでいる。

⑤料金回収率は供給単価が増加したため、前年度より水準が高くなった。理由としては旧簡易水道料金値上による料金収入の増加やコロナ禍による家庭使用分の有収水量の増加が考えられる。

⑦施設利用率については、年間配水量が増加したことによるものもあるが、分母の一日配水能力量の修正によるものが大きい。

⑧有収率は前年度より上昇し数値の改善が見られたが、類似団体平均値と比べ低いため、引き続き漏水調査や管路の修繕等を行い、有収率の向上を図る必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は増加傾向にあり、施設の老朽化が進んでいる。

②管路経年化率は前年度より下回り、数値の改善が見られた。

③管路更新率は前年度に比べ減少し、全国平均値を下回っているため、今後、アセットマネジメント手法の活用により、計画性をもって更新対策を行う必要がある。

## 全体総括

経営の健全性・効率性の指標は前年度より改善されており、類似団体平均値と比較しても、良好であるが、老朽化の状況が類似団体平均値と比較すると低水準である。

今後、給水人口の減少に伴い、収益が減少していくと予想されると共に、施設の維持管理費及び管路更新の計画的実施による建設改良費の増加が見込まれる。

施設の統廃合など効率的な運営を行うと共に、官民連携・広域化を検討し、経費の削減に努めることで、経営基盤の強化とサービス向上を目指していく。